

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ名 Gifu teacher's labo

テーマ

自ら考え、選び、動く力を育む授業づくり ～多様なアプローチによる主体的学習者の育成～

取組のポイント・成果

本事業では、子どもが「自ら選び、動き出す」学びを実現するために、オランダ体育・ゆるスポーツ・野外で算数の3つのアプローチを中心に研修と授業実践を行った。

【内容】

- 6月9日:ゆるスポーツ・教師の在り方研究(会場:各務原 park bridge/講師:近藤聡氏 NPO グリーンハート)では、得意不得意に関係なく誰もが関われる運動を体験し、安心して挑戦できる場づくりを検討した。ゆるスポーツの目的や理念について学び、インクルーシブな授業デザインへの示唆を得た。
- 7月12日:オランダ体育体験(大府市小学校)、10月13日あそぼっけまなぼっけ・オランダ体育(各務原市学びの森/講師:渡部和香羽氏)では、子どもの人権を尊重した体育の在り方について学んだ。3~4つのコーナーを準備し子どもが自分で選択して活動する仕組みや、自分の力に応じて挑戦できる環境づくりを体験し、納得して参加する姿を引き出す授業実践につなげた。
- 10月25日:野外で算数ワークショップ(ぎふ森林文化アカデミー/講師:山本幹彦氏)では、自然や身近な環境を教材とし、体験から問いが生まれる学びの実践を交流した。野外での算数の学校での実践事例を共有し、教室外での学びの可能性を探った。
- 12月13日:実践報告会(各務原 park bridge)では、各教員の授業実践を共有し、成果と課題を協議した。これらを通して、教師が指示する授業から、子どもが主体的に関わる授業への転換を目指した。

【成果】

授業実践では、子どもが自分で活動を選ぶことで「やらされる」から「やってみたい」へと意識が変化し、最後まで関わろうとする姿が多く見られた。

特に、知的障害特別支援学級の実践では、これまで体育に苦手意識を持っていた児童が、オランダ体育の選択制を取り入れた授業を年間を通して実践したところ、「体育はいつあるの?」と自ら聞いてくるようになった。能力に大きな差のある集団でも、どの子も自分に合わせた活動を選択することで、安心して参加し続ける姿が見られた。

また、野外算数では、これまで活動に入りにくかった子が、友達と相談しながら量や数を確かめる姿が印象的であった。自然や身近な環境の中で、体験を通して問いが生まれ、主体的に学ぶ姿が引き出された。

さらに、まとめの実践として、10月13日に各務原市学びの森にて Gifu teacher's labo 主催「あそぼっけまなぼっけ」を開催した。子どもが自ら動き出す場を地域に開き、大人は「教えない・誘導しない・信じて待つ」という在り方を探究する機会となった。参加した子どもたちが、自分で遊びを選び、工夫し、友達と関わりながら夢中になって活動する姿が見られた。

取組の成果は、主体性は指導によって一方的に育てるものではなく、選択できる場と安心できる関係の中で引き出されることが確認できた点にある。

今後の課題

今後の課題として、選択のある授業づくりを一過性の取組にせず、日常の授業や学校文化として継続する仕組みが必要である。

また、子どもが安心して選び挑戦できるための学級経営や、教師同士の対話・協働体制づくりも引き続き探究していきたい。特に、「待つ」姿勢を持ちながらも適切な支援を行うバランスや、選択肢の質を高めるための教材研究についても深めていく必要がある。

授業実践と地域イベントを往還しながら、「誰一人取り残さない主体的な学び」の具体化を進める